

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900116		
法人名	特定非営利活動法人なごみ		
事業所名	グループホームぼらん千厩		
所在地	岩手県一関市千厩町千厩字前田229番地		
自己評価作成日	平成23年9月22日	評価結果市町村受理日	平成24年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900116&amp;SCD=320">http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390900116&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年10月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの運営を通して、多くの高齢者が幸せになれるような社会を実現し、併せて社会福祉活動と福祉・介護の発展にも貢献したいと努力してきた。開所から2年が経っても「入居者が主人公」という考え方は変わらず、プライバシーと尊厳を守りながら介護と生活支援を行っている。近隣との交流を重視しこれまで以上に地域に密着した、開かれたホームとなりつつある。岩手・宮城の姉妹ホームとの連携も盛んで、合同行事などを通して、職員だけでなく、利用者様とその家族様も顔なじみの関係が築かれ、やさしい環境が提供できている。また、書式や業務内容の共通化は、結果的にノウハウの共有や異動時の負担軽減・不安解消につながっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、前回の外部評価が東日本大震災の影響により、今年の5月23日に実施されてから、5ヶ月経過したばかりであるが、地域密着型サービスを目指し、お隣やご近所には日常的な声掛けを心掛けている。自治会に加入したことにより行事等の見学も増えて外出傾向にある。笑顔は、照り返しである事を職員は常に心がけ、そこには利用者皆さんの笑顔があり、安心して落ち着いて生活出来る支援に取り組んでいる。また、職員の育成に力を入れており、資格取得の支援を積極的に実施し、質の高いサービスを目標としている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	姉妹ホーム共通の介護理念の他にぼらん千厩が開所の時に職員皆で作成した介護理念がある。ネームプレートの裏に明示しつつでも確認できるようにし、月例ミーティングや毎日の小ミーティング時に職員で唱和している。	法人の本部は気仙沼市にあり、共通の介護理念6項目が掲げられている。当事業所独自で職員全員で作上げた「皆で一緒に思いやりのある笑顔あふれる普通の生活」を事業所理念とし、毎月または毎日のミーティング時にも介護する人に止まらず、不安を取り除き、満足がいく安心・安全を心がける等を基本に置いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域に溶け込むよう努めている。近隣の方との交流を深めるため、道路掃除やお祭り等に参加し、利用者様が地域社会とのつながりをもち、地域の一員として生活できるよう支援に努めている。	自治会に加入したことにより、行事等を見学する機会が増え、外出傾向にある。隔月ではあるが、地域の道路清掃にも参加している。ボランティアの方々に敬老会でのお手伝いもして頂いている。近隣地域住民は仕事をしている方が多い中、今後も働きかけを継続することで、理解を深めることにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ認知症の理解を深めていただくため、地域の行事に積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見や要望は、ミーティングや日々の生活の中で職員に周知し、迅速な対応に努めている。また、地域運営推進会議の際には前回の議事録を出席者に配布しており、前回の会議の内容を把握いただいている。	運営推進会議参加の家族は、交替で出席できるよう取り組まれている。会議の中で避難訓練の際には声掛けをして欲しいとの要望があったり、震災の際の備蓄の整備のアドバイスや、湧水が出る場所を教えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当部署へは電話だけではなく、度々足を運んで協力関係を築くよう努めている。その際にはご利用者様も一緒に行くことがあり、ホームでの日常を見ていただく機会ともなっている。	市の担当者は運営推進会議委員にもなっており、入居者のホームの生活状況を見て頂いている。事業所の施設整備や、開設に関する運営上の相談もするなど、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用者様の状態等の情報を共有し、どのような方法が本人の思いを大切に、安全を確保しつつ自由な暮らしが出来るケアなのかを常に話し合い、身体拘束についての勉強会を開催し話し合う機会を設けている。	法人全体のマニュアルが作成されている。身体拘束に関する研修会には職員が出席したのち、内部研修を実施している。施錠は夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や月例ミーティング、勉強会を通して日頃のケアや声掛けの方法についても潜在的な虐待などがあることについて学び、高齢者虐待防止関連法についての理解に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料やファイルを整備いつでも閲覧できるようになっている。研修等に参加し、報告会で全職員が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはお時間をいただき契約書と重要事項説明書の内容を丁寧に説明することを徹底している。また、その際には質問も受け付けており、不安なくサービスについて理解していただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談機関を重要事項説明書に明記し、玄関にも意見箱を設置している。事業所内において解決に向けた取り組みがスムーズかつ迅速に行われるには上司・運営者への報告・連絡・相談が大切であることを職員が認識している。	利用者とは日々の生活の中で、思いを聞くことに心掛け、家族と話す機会も設けている。県外(3名)の方もおり、電話やファックスで情報交換している。グループホームの広報は個々の利用者の写真付きにしている。欲しいものを伝え持ってきて頂いたり、家族からの要望を聞くようにし、配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員が話しやすい環境や雰囲気づくりに努めている。ミーティング等では職員からの意見を聞き、よりよいサービスを提供できるよう提案を反映できるよう取り組んでいる。	職員同士、何よりコミュニケーションを大切にしている。一日の業務の反省をしながら、より良いサービスの提供ができるよう、備品の購入、勤務体制(勤務内容を詳細にする)の見直し、正職員に採用する等意見を反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育て中の女性職員の時間短縮や様々な条件の受け入れ等の話し合いを持つなどの職場環境の整備や職員個々の意欲向上に対し支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	姉妹ホームでの交換研修や、市が主催する研修に参加する機会を設けている。無資格の職員へは今年度より行われている当法人が主催するヘルパー講習で資格取得する機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は行政で行っている勉強会に職員一人ひとりに参加する機会を設けている。同じ地域の同職種に携わる方々と意見を交わすことで支援に対する共通事項を理解し合えることで意識向上になるよう期待している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前サマリーなどしっかり確認し、本人とお話する機会を設けている。困りごと、不安なこと、要望等は本人の目線を同じ高さで傾聴し、出来る限り要望に答えられるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込みの時からご家族がどのようなケアを望んでいるのか不安なことはないか十分時間をかけ説明・対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で十分な聞き取りを行い、ご利用者様本人とご家族様がまず必要としている支援を見極め、適切な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重し利用者とともに触れ合える関係を築いている。利用者の出来る事(掃除や食器拭き等)をして頂き、一緒に生活していることを大切にしている。支援は一方的にならないよう利用者の自らの力も活かしながら支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問時には近況報告を行っている。イベントや利用者の誕生日会などの際には家族の都合を聞き来訪を呼びかけている。これまでの絆を断ち切ることがないように配慮している。家族との連絡、現在の状況報告し出来ている。入居前のその人らしい暮らしを続けて頂く様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームで生活することは環境が変わり入居者様の精神的な負担になることもあるが、なじみの関係が継続できるよう支援に努めている。また、ご友人が来訪された際にはゆっくりお話が出来るよう配慮している。	入居前に、利用者の家族からの聞き取りや、本人の日々の生活の中での会話で気づいたことや、親戚の方が面会に来訪された際にも情報を得るよう、取り組みしている。友人が毎月訪問している方もいる。入居前の理美容院には、家族や職員も同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日一緒に生活していると利用者様同士がお互いを支え合い、職員を含めたなじみの関係が構築できてきていると思う。また、レクリエーション活動や様々な活動の中で円滑なコミュニケーションが図れるよう職員も環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム外でお会いした際、声をおかけして近況や思い等傾聴している。他施設に転居しても近況を伺ったり、ご家族様への情報提供に努めている。今後利用者様が他の施設へ転居した場合でも継続した関係性を大切にして行きたいと思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が語った思い等は記録として残し、職員は利用者様の気持ちを共有し、その思いを検討し支援に活かすよう努めている。また、ご利用者様に寄り添い、思いや意向を把握している。	利用者の担当者を決めており、個々の利用者の日常生活の具体的な様子、本人が話されたこと、ありのままの言葉で生活記録に記入し、職員が気づいたことなどは、備考欄に書き、全員共有にしていると共に、利用者により寄り添うことを日々大切にし、心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族様からのお話を記録に残し職員間で共有し把握に努めている。また、ご利用者様とのコミュニケーションを大切に、これまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック、排泄表、生活記録を記入することで、一人ひとりの体調や心理状態を把握し、職員間で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様からは普段の会話から希望などを聞き取りを行い、ご家族様からは面会時など意見聴取の機会を設けている。また、毎月のミーティングで担当者を始め、全職員の気づきや意見を介護計画に取り入れ3カ月に1回見直しを行っている。	担当職員からの情報等をもとにミーティングで話し合い、生活記録を参考にしながら、毎月のモニタリングで共通の目的を持つよう心がけている。家族には、毎月の利用料の支払いの際に聞く機会を設けている。来訪出来ない方には電話、ファックスで情報交換を行い、把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の利用者様とのかかわりの中で、日々の状態や状況に合わせて最善のサービスを提供できるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の日々の状況・状態に合わせて最善のサービスが提供できるよう情報を共有し常にケアの見直しを行うよう努めている。職員やご家族様と相談し柔軟な支援が出来るよう取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぼらん千厩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心安全に暮らしていけるよう、ホームで行事などがある際には近隣の方々や民生委員や婦人会に声をかけて交流を図るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様ご家族様の希望を尊重し、かかりつけ医への受診を継続している。受診の際には総合グラフを持参し、かかりつけ医への情報提供を行っている。	利用者全員がかかりつけ医の受診をしている。毎月の受診には、家族や職員も対応している。週1回、歯科衛生士が訪問し、口腔ケアの指導や、室根診療所の看護師の訪問も週1回あり、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の小さな状態の変化など些細なことでも記録に残し職員間で情報を共有し、訪問看護師が来訪した際には、適切な受診や看護を受けられるよう身体の様子、経過を報告し指示を受けて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された際は日常の情報を医師へ提供し、最善の治療が出来るよう連携に努めている。お見舞いへ行くことにもよって入院中の利用者様が退院後も安心してホームでの生活を継続できるよう状態を把握し職員に伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に利用者様とご家族様の意向を確認し、かかりつけ医との連携を図ることを意識し支援に取り組むように努めているが、状況の変化毎に家族と十分な話し合いを重ねその都度対応している。重度化、終末期に向けて指針を早期から家族等に説明し、意思確認も行っている。	重度化、終末期に向けた指針を文書化し、全職員に配布している。医療行為が生じた場合には限度があることを理解して頂き、日常生活が出来る範囲内までは、対応する事で最大限の取り組みを行っている。状況の変化に応じてその都度家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや連絡網が作成されており、迅速に対応できるように整備している。実践力を身につけるため定期的に勉強会などを開催し職員のさらなるスキルアップにつなげていけるようにしたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難・通報訓練を行い、避難経路や誘導方法を訓練している。非常用食料や入居者の薬手帳、救急箱など持ち出し品を定期的にチェックし非常時に備えている。	災害対策のマニュアルは法人全体及び、事業所独自としても、見直しをしているところである。地域との協力体制を築くために、運営推進会議の中でも働きかけている。避難、通報訓練には消防署員が必ず参加して下さり、注意点を活かしながら取り組みしている。夜の訓練は実施されていない。	消防署員からの助言もあり、夜の訓練も実施する予定である。夜間を想定した訓練(通報訓練も含めて)を早期に実施することに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお話をまずはゆっくり聞き理解に努めている。否定的な声掛けをせず利用者様に寄り添う姿勢を大切に、利用者様一人ひとりに合った声掛けを行いながらケアに努めている。	一人ひとりのトイレへの声掛けには、特に注意をしている。レクリエーション参加も本人本位としている。方言が違う県外の入居者もいるため、個々に合わせた言葉遣いや、声のトーンには気をつけている。接遇の勉強会には力を入れて取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話しやすい場所(居室やソファ)でゆっくりと話を聞いている。意見や希望に沿うような声掛けや支援を行うよう心がけ、利用者様の思いが話しやすく自己決定出来るような環境を作りこいに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の希望を尊重し、その方一人ひとりの生活を崩すことのないよう支援している。裁縫が得意な利用者様が多く、希望に沿って刺し子や布巾を縫うことが習慣となりつつある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理美容院を利用し、地域とのかかわりを大切にしよう支援に努めている。衣服の選択は利用者様に選んで頂けるよう働きかけ、利用者様自身が楽しみながらみだしなみに配慮できるような支援に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なじみの料理の作り方を利用者様に教えていただいたり、好きな食べ物を伺ったり、食に関心を持っていただけるような支援を大切にしている。食事の準備・盛り付け・食器拭き等日課になっている方には見守りしながら行って頂いている。	食べ物に関心を持ってもらえるよう広告のチラシを見たり、買物に出かけている。利用者からは、「はっと」の作り方を教えて頂きながら、食事が楽しくなるよう個々の嗜好を聞き、食事づくりにも参加して頂いている。イベント食、外食、公園での食事等工夫しながら取り組んでいる。献立は法人の栄養士が作成している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定や総合チェック表に摂取量等を記入し利用者様の状態を把握しながら支援に努めている。又、主治医と相談の上、職員間での情報共有を大切に、各利用者様の必要に応じた水分量などを把握し確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず、できる方には声掛けによりご自分で行って頂き、職員は見守りや確認を行うようにしている。訪問看護師や歯科衛生士が来訪した際にはアドバイスをいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し、排泄のサインに合わせて声掛けを行ったり誘導や介助をしている。排泄チェック表の記入を確実に行うように努めている。	ポータブルトイレや、オムツは現在のところ使用していない。夜間も同様である。トイレ誘導も2名のみで、比較的自立である。ホーム内での車いす対応の方はいない。便秘からくる様々な症状が多く見られることもあり、常にチェック表を把握しながら、利用者個々の状態に注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分補給を促す他、牛乳やヨーグルトなどの食事や、軽体操などの運動を毎日行うようにし便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日バイタル測定を行い利用者様の体調の把握に努め、希望に応じて入浴の声掛けを行いながら気持ち良く入浴していただけるような支援に努めている。	入浴の基準はマニュアルに沿っており、週に3回入浴している。午前でも午後でも自由としている。特に入居前にデイサービスに行っていた方は、家族の要望もあり、午前中に入浴されている。入浴の消極的な方には入浴剤を使用しながら促し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々利用者様の生活リズムや状況、気分に合わせて休んで頂けるよう声掛けを実施している。また、安眠できるような居室の温度や電気等に配慮し、本人に確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を全職員が閲覧できるようファイル化し、減薬や増薬があった場合には随時ミーティングなどで報告し、情報の共有を徹底し、体調の変化を見逃さないよう副作用などについての理解を深めるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の力を活かした事を盛り込み、ホームでの生活では役割があり、頼りにされているという思いを感じて頂ける様な声掛けや支援に努めている。また、昔ながらの行事や食事の作り方を聞いて一緒に取り組み楽しみながら生活している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様から希望があった際などには随時外出等を行っている。戸外に出る利用者様には寄り添い、又地域の催し物がある際には外出の計画を立て積極的に参加するよう努めている。調理員の買い物やホームで撮った写真の現像した物を受取りに行く機会を作り外出したりしている。	日常生活の話(会話)の内容などは、個々の生活記録に記入してあり、日程に組まれている。毎日、散歩で花壇を見に行ったり、ドライブで東山、室根山、フジの花の見学等に出かけている。災害復旧のイベントや、夏祭りにもボランティアの協力を得ながら、支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は基本的にはホームで行っているが、ご利用者様が買い物希望されるときや外出時には自由に使えるように支援している。利用者様・ご家族様が知りたいときはいつでも提示している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった際には電話やFAX等のやりとりの支援を行っている。また、年賀状をご家族様だけでなくご友人にも出しており、お付き合いを継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では利用者様の歩行の妨げにならないように環境を整備し、居室ではなじみの物を置き、安心できる空間づくりに工夫している。行事や季節に応じた装飾の作成などにも取り組み、活動風景の写真を飾っている。	居間兼食堂は、広くて、明るく、ゆとりのある共用空間である。廊下には木製のベンチも置かれて自由に休むことができる。小上がりの和室は段差がなく、バリアフリーになっている。職員の顔写真や、利用者との共同作品、利用者個々の作品で、はり絵、ペン習字などが貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内のさまざまな場所で利用者様が思い思いに過ごせるように環境整備に努めている。ホールでは座席が決まっておりご自分の居場所が確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には今まで使い慣れた布団やタンスなどを持ち込んで頂き、心地よく過ごせるような居室の整備に努めている。また、居室にはお誕生日のカードを飾ったり好きな本やCDを自由に楽しめるようにしている。	それぞれに大切にしている布団、タンス、家族の写真、時計、CDを自由に聞けるようにラジオや本などが持ち込まれ、整理整頓されている。また、誕生日のカードが飾られ落ち着いてゆっくりと過せるように工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・居室に表示を行い、声掛けや誘導している。手すりの設置や廊下に障害物を置かない等環境整備し、安全で自立した生活を送れるように工夫をしている。		